

設 計 課 題 「レストラン併用住宅(木造2階建)」

1. 設計条件

- ある地方都市の住宅地において、夫の早期退職を機に、夫婦で食事とワインを楽しむレストラン併用住宅を計画するものである。
- 計画に当たっては、次の①～⑤に特に留意する。
- ①レストラン部分と住宅部分は、出入口口を明確に分離し、屋内の1階部分で行き来できるようにする。
- ②レストランには、客席スペースから直接行き来できる屋外テラスを設け、敷地内の既存樹木が眺められるようにする。
- ③レストランに個室を設け、客席スペースと一体的に利用できるようにする。
- ④住宅部分の各居室の配置においては、十分な日照に配慮する。
- ⑤建築物の耐震性を確保する。

(1) 敷 地

- ア. 形状、道路との関係、方位等は、下図のとおりである。な
- イ. 第一種住居地域内にあり、防火・準防火地域の指定はない。
- ウ. 建ぺい率の限度は60%、容積率の限度は200%である。
- エ. 地形は平たんで、道路及び隣地との高低差はなく、地盤は良好である。
- オ. 電気、都市ガス、上水道及び公共下水道は完備している。

(2) 構造及び階数

木造2階建とする。

(3) 延べ面積

必ず「210㎡以上、250㎡以下」とする。

(床面積については、ピロティ、玄関ポーチ、屋外テラス、駐車スペース、駐輪スペース等は算入しないものとする。)

(4) 家族構成

夫婦(夫婦で経営、夫52歳、妻49歳)、子供2人(女子高校生、男子中学正)、通勤従業員2人

(5) 要求室

下表のすべての室は、必ず指定された設置階に計画する。

設置階	室	特 記 事 項	床 面 積
1 階	レストラン部分	客席スペース	35㎡以上
		ア. 4人掛けテーブル(800mm×1,400mm)及び2人掛けテーブル(800mm×700mm)を設け、計20席以上とする。	
		イ. 待合いスペースを設け、いす3席及びワインセラー(700mm×750mm)を設ける	
		ウ. レジカウンターを設ける。	
	個 室	エ. 履物は履き替えないものとする。	13㎡以上
		ア. 8人掛けのテーブルを設ける。	
		イ. 客の予約がないときは、客席スペースとして使用する。	
		ウ. 客席スペースと直接行き来できるようにする。	
2 階	住宅部分	厨 房	19㎡以上
		食 品 庫	適 宜
		配ぜんスペース	4㎡以上
		更衣・休憩室	
		客 用 便 所	適 宜
		玄 関	適 宜
	住宅部分	便 所	
		・心々1,200mm×1,500mm以上とする。	26㎡以上
		(注)住宅部分の1階の廊下の幅は、心々1,200mm以上とする。	
		居間・食事室・台所	
2 階	住宅部分	夫 婦 寝 室	適 宜
		・洋室とし、その他にウォークインクローゼットを設ける。	
		子 供 室(1)	
		・洋室とし、その他に収納を設ける。	3㎡以上
		子 供 室(2)	
		・洋室とし、その他に収納を設ける。	3㎡以上
		洗 面 脱 衣 室	
		浴 室	適 宜
2 階	住宅部分	便 所	4㎡以上
		・心々1,200mm×1,500mm以上とする。	
2 階	住宅部分	納 戸	4㎡以上
		・心々1,200mm×1,500mm以上とする。	

(6) 屋外施設等

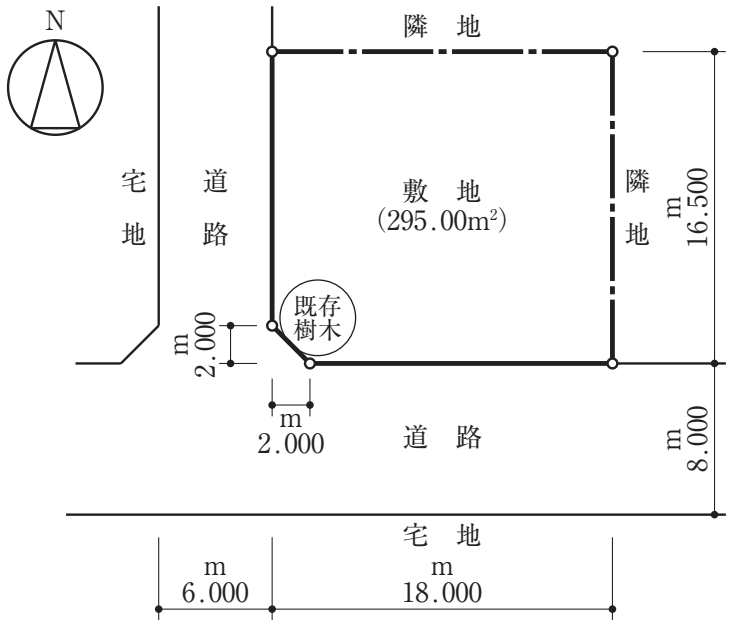
屋外に下表のものを計画する。

屋 外 テ ラ ス	ア. 9㎡以上とし、客席スペースと直接行き来できるようにする。 イ. テーブル(計8席)を設ける。
駐 車 ス ペ ース	・乗用車3台分(客用2台、住宅用1台)を設ける。
駐 輪 ス ペ ース	・自転車7台分(客用5台、住宅用2台)を設ける。

2. 要求図書

- a. 下表により、答案用紙の定められた枠内に記入する(寸法線は、枠外にはみだして記入してもよい)。
- b. 図面は黒鉛筆仕上げとする(定規を用いなくてもよい)。
- c. 記入寸法の単位は、mmとする。なお、答案用紙の1目盛は、4.55mm(矩計図にあっては、10mm)である。
- d. シックハウス対策のための機械換気設備等は、記入しなくてよいものとする。

要 求 図 書 ()内は縮尺	特 記 事 項
1 階 平 面 図 兼 配 置 図 (1/100)	ア. 敷地境界線と建築物との距離、建築物の主要な寸法を記入する。 イ. 道路から玄関へのアプローチ、屋外テラス、駐車スペース、駐輪スペース、門、塀、植栽等を記入する。 ウ. 室名を記入する。 エ. レストラン部分には、次のものを記入する。 ・客席スペースに、テーブル、いす、レジカウンター ・個室にテーブル、いす ・厨房に、厨房設備機器(流し台・調理台・コンロ台、冷蔵庫等)、手洗い器 ・配ぜんスペースに配ぜん台 ・更衣・休憩室にロッカー、テーブル、いす ・客用便所に、洋式便器、手洗い器 オ. 住宅部分には、下足入れ、洋式便器を記入する。 カ. 「通し柱」を○印で囲み、「耐力壁」に△印を付ける。 (注)「耐力壁」とは、筋かい等を設けた構造上有効な壁をいう(以下同じ)。 キ. 矩計図の切断位置を記入する。
2 階 平 面 図 (1/100)	ア. 建築物の主要な寸法を記入する。 イ. 室名を記入する。 ウ. 住宅部分には、台所設備機器(流し台・調理台・コンロ台、冷蔵庫等)、浴槽、洗面台、洗濯機、洋式便器を記入する。 エ. 「通し柱」を○印で囲み、「耐力壁」に△印を付ける。 オ. 1階の屋根伏図(平家部分がある場合)も記入する。 カ. 矩計図の切断位置を記入する。
2 階 床 伏 図 兼 1 階 小 屋 伏 図 (1/100)	ア. 主要部材(通し柱、1階及び2階の管柱、胴差、2階床梁、 ^{けた} 桁、小屋梁、火打梁、棟木、 ^{もぐら} 母屋・小屋束)については、凡例の表示記号にしたがって記入し、断面寸法(小屋束を除く)を凡例欄に記入する。ただし、主要部材のうち、平角材又は丸太材としたものについては、その断面寸法を図面上に記入する。なお、根太及び垂木については、記入しなくてよい。 イ. その他必要に応じて用いた表示記号は、凡例欄に明記する。 ウ. 建築物の主要な寸法を記入する。
立 面 図 (1/100)	ア. 南側立面図とする。 イ. 建築物の最高の高さを記入する。
矩 計 図 (1/20)	ア. 切断位置は、1階・2階それぞれの外壁の開口部を含む部分とする。 イ. 作図の範囲は、柱心から1,000mm以上とする。 ウ. 矩計図として支障のない程度であれば、水平方向及び垂直方向の作図上の省略は、行ってもよいものとする。 エ. 主要部の寸法等(床高、天井高、階高、軒高、軒の出、開口部の内法、屋根の勾配)を記入する。 オ. 主要部材(基礎、土台、大引、1階根太、胴差、2階床梁、2階根太、 ^{けた} 桁、小屋梁、 ^{もぐら} 母屋、垂木)の名称・断面寸法を記入する。ただし、1階床を土間コンクリートとする場合は、コンクリートの厚さ等を記入する。 カ. 床下換気口(又は、これに代わるもの)の位置・名称を記入する(1階床が木造床組の場合のみ)。 キ. アンカーボルト、羽子板ボルト等の名称・寸法を記入する。 ク. 外気に接する次の部分の断熱・防湿措置を記入する。 ・屋根(小屋裏が外気に通じている場合は、屋根の直下の天井) ・外壁 ・1階床 ・その他必要と思われる部分 ケ. 室名及び内外の主要な部位(屋根、外壁、床、内壁、天井)の仕上材料名を記入する。
面 積 表	ア. 建築面積、床面積及び延べ面積を記入する。 イ. 建築面積及び床面積については、計算式も記入する。 ウ. 計算結果は、小数点以下第2位までとし、第3位以下は切り捨てる。
計画の要点等	・次の①、②について、それぞれ箇条書きで具体的に記述する。 ①道路からのアプローチ計画において工夫したこと ②客席スペース及び屋外テラスの配置において工夫したこと



(注) 既存樹木 (枝張り4.0m) は、現在の位置に保存するものとする。

敷地図 (縮尺: 1/400)